

第11回情報セキュリティ政策会議にあたっての意見

2007年4月23日

(株)イプシ・マーケティング研究所

代表取締役社長 野原 佐和子

重要インフラ情報セキュリティ対策実施状況の評価、2006年度情報セキュリティ政策の評価、セキュア・ジャパン 2007 策定など多くの検討事項を推進し取りまとめた関係者の方々の努力に敬意を表します。

1. 2008年度中に目標を達成できるよう、政府機関情報セキュリティ対策推進の強化を

2008年度中に世界最高水準の政府機関統一基準を策定し、2009年度の初めまでに各省庁が世界最高水準の対策を実施していることというのが目標だが、今のようなペースで目標が達成されるのかどうか疑問に感じる。

今回説明のあった資料1「各府省庁からの対策実施状況報告」や資料3-2「CEPTOAR 特性把握マップ」を見ると、調査や実態把握の趣旨を正しく理解しているとは思えない省庁も見受けられる。まずは、現状・実態をよい点もよくない点も正しく把握し問題点や課題を明確化してこそ、弱点に対して適切な対策を打てるのではないか。PDCA サイクルの意味を再確認し、実質的に情報セキュリティ対策が目標に向けて推進するよう取り組んでいただきたい。

2. 政府機関・重要インフラの現状評価に客観的データを加え、正しく現状・課題の把握を

資料4-2「2006年度の情報セキュリティ政策の評価等」を読むと、「第4章 企業・個人における現状の評価」では、各省庁等が実施した調査結果に基づき企業・個人のセキュリティ対策への意識及び実施状況を客観的データにより把握し Outcome 指標によって評価が行われているが、政府機関や重要インフラにおける現状の評価では、客観的な評価データが極めて少なく十分な評価が行われたとは言い難い。

前項目とも関連するが、基本計画の趣旨・目標を考え現状把握・課題抽出を行い、情報セキュリティ対策を進めていただきたい。

3. 経済産業省「産業構造審議会 情報セキュリティ基本問題委員会」の「グローバル情報セキュリティ戦略」とも連携を

情報セキュリティに関する脅威が国際化する傾向にあるため、国際連携を通じた対応がますます重要になっていくと思われる。私も委員をしている経済産業省「産業構造審議会 情報セキュリティ基本問題委員会」では、このような問題意識に基づき「グローバル情報セキュリティ戦略」を取りまとめた。

資料4-3「セキュア・ジャパン 2007」の「第6章 2008年度の重点施策の方向性」では、第2節に「国際展開に向けた取組み」について取り上げてあるが、この「グローバル情報セキュリティ戦略」の内容も参照し、連携していただきたい。